

「1987年に大阪の小さなある街で起きた 愛が引き起こした戦争」

人を殺してしまい刑務所へ行った父。出所してから2年間、一言も喋らない。だがある日、一言「家族でバンドを組もうと思うんだが!!」あわてふためく家族。父の作る詞は滅茶苦茶で最低だがドアーズだ。父が作る詞の中に一体どういう意味が隠されているのか？暴力でしか自分の感情を表現出来無い男。暴力こそ正義と、かたくなに信じる女。一体、何が真実で何がニセモノなのか。テレビをつけて、クールに歌うビジュアル系のバンドの奴らに惚れそうになったら、すぐ、自分で自分の瞳を潰そう。それが出来無い人は、この映画を見て街に出て、大声で叫ぼう。
「ファック・ユー-----」

「家族ロックを見ながら、Lを食いたいぜ!」

「家族ロック」は、「QUADROHENIA」より痛みを感じ、「グレート・ロックンロール・スウィンドル」よりパンクで、「ベルベット・ゴールドマイン」よりゴージャスなエナジーを発している。

彼の人柄と、個性的な脚本に惹かれた、関西の小劇場で活躍する個性的な役者たち。劇団での活動と同時並行で映画に参加している。テンションの高い個性的な脚本に、個性的な演技で応えている。長い撮影期間、そして、その後待つアフレコまで見事にモチベーションを維持し続けた。

「家族ロック」の制作は、まるで、ギター1本でストリートで勝負するミュージシャンのようだ。気が付けば一緒に歌を叫んでいるように、キャストやスタッフは巻き込まれたに違いない。彼はカメラをギターのように構え、個性的なキャストと暇ができれば応援に駆け付けてくれるスタッフと地道に路上で勝負する。3年間みんなと歌い続けた結晶が、1本の映画になった。アンプになんか頼っていない。「家族ロック」、パンクな映画の完成だ。

高田角栄の
ちんちんは堅かった。
めたしたりイヤあくり♡

河瀬直美

<キャスト> 高石泰洋
大西明子
麻倉えり子
園山園子
川崎哲也

Illustration/宮武憲二



監督のコメント

“チャールズ・マンソン”と“シド・ビジャス”が漫才をしたら……………という設定でこの映画は、生み落とされた。「第3次世界大戦で日本は勝てる」と叫びながら、クラブで死ぬほど全開で踊っていたら、後ろのホモ野郎が俺にキスをした。俺は、そのホモ野郎に嘔いた。「一緒にスナップビデオを撮ろうか」って。したらホモ野郎が言った。「ビデオはイヤだ」って。映画は天国と地獄が肩を組んでいる。チンポとおんなじ形のカメラが欲しい。全身に、トライバルと和物のイレズミを彫りたいが、おかんが、悲しむから止めとかなしゃあない。

U I S U A L A R T S O S A K A

映像の世界のクリエイターをめざせ!

放送・映画学科

VIDEO & MOVIE

<http://www.odg.ac.jp>

絶対プロになる!
ビジュアルアート専門学校 大阪

0120-69-2299

〒530-0002 大阪市北区曾根崎新地2-5-23

劇場提供
プロジェクト
第1弾

11/17(土)~23(金)7日間限定レイトロードショー!
連日PM8:50(終10:35/1回上映)
特別鑑賞券1000円(当日/一般・学生1200円、シニア1000円)

シネ・ヌーヴォ
TEL.06-6582-1416
〈シネ・ヌーヴォのホームページアドレス〉
<http://terra.zone.ne.jp/cinenouveau/>

地下鉄中央線		一本町
九条駅		6番出口
大塚池	アール・ミューゼ	丸の内線
シネ・ヌーヴォ	パオカ	丸の内線
	パオカ	丸の内線
	パオカ	丸の内線
	パオカ	丸の内線
	パオカ	丸の内線

大阪ドーム